

【様式】

令和4年度 学校マネジメントシート

学校名 ( 伊勢工業高等学校 )

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		・ 地元企業の人材育成を軸に、一人ひとりが望む進路の完全保障を実現する工業高校
(2)	育みたい 児童生徒像	○ 基本的な生活習慣を身につけ、社会常識のある明るく素直な生徒(ひとづくり) ○ 産業界から求められる技術・技能習得の意欲あふれる生徒(ものづくり) ○ 自他の命を尊重し、差別をなくす実践力と高い自己肯定感を有する生徒
	ありたい 教職員像	○ 目指す学校像の達成に向けて、教職員が教育活動の実践や改善のために、相互に共同し切磋琢磨する関係性(同僚性)を保ちつつ、失敗を恐れずに前向きにチャレンジし続ける教職員

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待		<p>&lt;生徒&gt; 卒業後の進路希望は、就職が約8割、進学が約2割である。また、資格の取得や活発な部活動に期待している。</p> <p>&lt;保護者&gt; 保護者の多くは、子どもの地元企業への就職を希望している。</p> <p>&lt;地域&gt; 元気で素直な生徒の育成に期待をしており、特に地元企業からの期待が大きい。</p>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	<b>連携する相手からの要望・期待</b>		<b>連携する相手への要望・期待</b>
	<p>&lt;家庭&gt; 日常の子どもの様子を知らせてほしい。</p> <p>&lt;中学校&gt; 学校の様子、卒業生の近況報告、入試状況を知らせてほしい。</p> <p>&lt;地域社会&gt; 地域の活性化のため、地域行事や防災面で施設や生徒の協力をお願いしたい。</p>	<p>&lt;家庭&gt; 本校教育方針への理解と協力をお願いしたい。</p> <p>&lt;中学校&gt; 継続的な指導が必要な個々の生徒の情報共有をお願いしたい。</p> <p>&lt;地域社会&gt; 本校の教育活動を理解し、積極的に協力して欲しい。</p>	
(3) 前年度の学校関係者評価等		<p>1) 教育活動について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 将来、社会人として学び続ける力や精神力、基本となる工業の知識、技能、資格を身につけることが必要である。</li> <li>・ ICT教育に努めるとともに、自立して生きる力を育成するために、今後も地域連携、ものづくり教育を推進していくことが大切である。</li> </ul> <p>2) 学校運営について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教職員の働き方については、厳しい状況であるため、今後も仕事内容の精選や部活動についても見直す機会が必要である。</li> </ul>	
(4) 現状と課題	教育活動	<p>&lt;現状&gt; 在学中に様々な資格取得を目指し、卒業後は地元企業へ就職する生徒が多いことから、生徒・保護者・地域のニーズには合致している。</p> <p>&lt;課題&gt; 企業が求める人材は、現在より一段高いところ(異世代間でも適応できるコミュニケーション能力、基礎的な学力の確実な習得、より高度な資格取得等)にあり、そのニーズに応えていく必要がある。また、生徒の安全と学びの継続を両立させるため、ICT教育の推進をすすめるとともに、変化の激しい社会や技術の急速な進歩に対応するために「課題解決力」や「学びに向かう力の育成」が必要である。</p>	

<b>学校 運営等</b>	<p>&lt;現状&gt;本校の教育活動を理解してもらうため、小学校への出前授業や地域のイベント等に積極的に参加しており、地域からは一定の評価をいただいている。地域も非常に協力的である。</p> <p>&lt;課題&gt;活発な部活動に加え、地域からの期待や要望に応えるための土日のイベント参加も多くなり、教職員も生徒たちも疲れてきている。参加するイベントの精選・工夫や日常業務の改善による総勤務時間の縮減を積極的に行い、教職員や生徒たちの過重な負担を減らしていく必要がある。</p>
-------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

### 3 中長期的な重点目標

<b>教育活動</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分かりやすく、きめ細かい授業を展開するとともに、学校生活全般を通して基礎・基本の学力および産業人としての専門的な能力の定着を図る。</li> <li>・基本的な生活習慣と身だしなみや挨拶などの社会常識を身につけた、明るく素直な生徒を育成する。</li> </ul>
<b>学校運営等</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・南勢地区唯一の工業高校としての存在意義を高めるため、地域との連携を深める。</li> <li>・第1希望の進路の獲得を目指し、基礎学力向上に向けた取り組みの充実と表現力・コミュニケーション能力の育成に取り組む。</li> <li>・教職員間の対話の促進と、執務環境の改善や総勤務時間の縮減など職員の労働安全衛生の向上に努める。</li> </ul>

### 4 本年度の行動計画と評価

#### (1) 教育活動

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
教科指導	<p>分かりやすく、きめ細かい授業を展開するとともに、学校生活全般を通して<u>学びに向かう力</u>の育成とともに、基礎・基本の学力および産業人としての専門的な能力の定着を図ります。</p> <p>「高志」ある生徒が、卒業時に取得すべき資格等を明確にして、取得するための体制づくりに取り組み、成果を上げます。</p> <p>(1)1年生から計画的、段階的に取得技術の高度化を図り、実用に即した資格取得に重点をおいた教育実践に努めます。</p> <p>(2)実習・課題研究や製図の取組の中で、技術技能の向上並びに「ものづくり」を通じた地域連携による課題解決力や表現能力に秀でた生徒の育成を進めます。</p> <p>【活動指標】</p> <p>(ア)ものづくり大会への参加 ・ものづくり東海大会への出場</p> <p>(イ)技能検定3級程度の技能練習、補習授業等の実施</p> <p>(ウ)建築設計競技会の参加</p> <p>(エ)地元幼稚園、保育所等のクラスプレート作り</p> <p>【成果指標】</p> <p>*資格取得【別表】参照</p> <p>(3)図書館の取組として、生徒の「生きる力」を育むため、読書案内・学習活動につながる教育支援の充実に努めます。</p> <p>【活動指標】</p>	<p>(2)資格取得等の実践</p> <p>(ア)ものづくりコンテスト木材加工部門 三重県大会準優勝 東海大会出場</p> <p>(イ) 電気科 技能検定3級電子機器組立 10名受験8名合格 技能検定3級電気機器組立て 11名受験5名合格</p> <p>建築科 技能検定3級合格者 全科合計29名</p> <p>(ウ)建築設計競技参加実績</p> <p>①日本建築協会工高生デザインコンクール 最優秀賞 ②日本大学設計競技 優秀賞 ③愛知産業大学建築コンペ 最優秀賞 ④岐阜女子大学リフォーム・デザイン案コンテスト 建築士会賞・優秀賞 ⑤九州産業大学プロジェクトコ</p>	

	<p>授業やHR活動等での図書館利用の推進 三重県学校図書館協議会および南勢地区高等学校図書館連絡協議会との連携</p> <p><b>【成果指標】</b></p> <p>生徒1人当たり貸出冊数5冊以上 高校生ビブリアバトルへの参加</p>	<p>ンテスト 設計部門 佳作</p> <p>⑥秋田県立大学建築提案コンテスト 佳作</p> <p>⑦とよはし公共建築学生チャレンジ コンペティション 高校生奨励賞</p> <p>(2)地域貢献 (エ) 高校生工務店実績 クラスプレート製作・設置 ・度会町立長原保育所 ・度会町立棚橋保育所 クラスプレート製作・設置 ・園庭椅子作成 伊勢市あおぞら児童園 ・教材制作 度会特別支援学校 教材制作 伊勢工業高校小学生講座 1月6日(金)イオンモール明和 参加者474人 (機械科ブース144人、電気科ブ ース158人、建築科ブース172人)</p> <p>(3)図書館 図書館だよりを9回/年発行し利用 啓発に努めた。 ・生徒1人当たり貸出冊数 2.9冊(1月末現在) ・南勢志摩地域高校生ビブリアバ トル参加者生徒数 バトラー2名</p>	
生徒指導	<p>基本的な生活習慣と身だしなみや挨拶などの社会常識を身につけた、明るく素直な生徒を育成します。(ひとづくり)</p> <p>(1)挨拶の励行や時間の尊重、身だしなみや礼儀作法に気を配り、ルールを遵守するなど、生活規範を身につけた生徒を育てます。</p> <p><b>【活動指標】</b></p> <p>(ア) 全教員による登下校校門指導と校内巡視(毎日) (イ) 駅前・町内巡視の実施 (ウ) 5分前精神の徹底(時間を守る・遅刻しない) (エ) 授業に集中させるために入室許可証の発行実施 (オ) 頭髪服装指導(通年)・身だしなみ講座(4月)の実施</p> <p><b>【成果指標】</b></p> <p>(ア) 挨拶の励行100%</p>	<p>・月水金に登校指導、校内巡視を実施した。</p> <p>・駅前や市内の巡視、校外活動時は生徒指導部で巡視した。</p> <p>・身だしなみ講座は1年生対象にオリエンテーションを利用して実施した。</p> <p>・入室許可証を取りに来る生徒は昨年より増加(14.2%増)</p> <p><b>【頭髪服装指導について】</b></p> <p>1)毎月実施した。 2)頭髪服装指導の延べ人数は R3:164→R4:216(31.7%増)</p>	

	<p>(イ) 遅刻の回数 昨年度比25%減</p> <p>(2)日々の授業や学校行事等、教育実践全般を通じて継続的にモラル教育を実践します。</p> <p><b>【成果指標】</b></p> <p>(ア) 欠席日数の減少</p> <p>(イ) 校則違反等による特別指導件数の減少(10件以下に減)</p> <p>(3)工業高校生としての連帯感を高め、いじめのない良好な人間関係の構築に努めます。</p> <p><b>【活動指標】</b></p> <p>(ア) 新入生研修で「ソーシャルメディアの利用について」の講話を実施(4月)</p> <p>(イ) 各科や各学年を通じた指導</p> <p>(ウ) 部活動での人間関係の育成</p> <p>(エ) 生徒個別面談(年間2回)や学校生活等に関するアンケート(各学期)の実施</p> <p><b>【成果指標】</b></p> <p>いじめの未然防止、早期の把握・解消</p> <p>いじめの解消率100%</p> <p>(4)学校の様子を積極的に保護者に発信し、意思疎通を図り、生徒指導の意義や目的への理解を高めます。(保護者や学校関係者以外の意見、HR活動や個別懇談の状況把握等の実施)</p> <p><b>【活動指標】</b> (ア) 保護者会やPTA諸会合での説明</p> <p>(イ) 学年懇談会での話し合い</p> <p>(ウ) 生徒個別面談を年2回実施、学校生活等に関するアンケートを各学期に実施</p> <p><b>【成果指標】</b> 保護者が学校の様子をよく理解している。保護者が学校に対し気軽に意見を言える。</p>	<p>9月を除くと R3:164→R4:187(14%増)</p> <p><b>【遅刻・入室】について</b></p> <p>・遅刻 R3:140→R4:364(160%増)</p> <p>・入室 R3:479→R4:547(14.2%増)</p> <p>コロナは落ち着いたが、体調不良を訴える生徒は増加している。</p> <p>・6, 11, 2月を遅刻防止月間とし、遅刻回数に応じた指導をしている。</p> <p><b>【特別指導について】</b></p> <p>・特別指導22件であった。SNSによる指導が増えており、今後継続した指導が必要であり、集会等で生徒の規範意識を高めることが急務である。</p> <p><b>【いじめについて】</b></p> <p>・いじめ防止強化月間では、宇治山田駅での啓発活動を実施した。また、校内の活動として国語科とタイアップし「いじめ標語」を募集し優秀者を文化祭で表彰した。</p> <p>・生徒個別面談、学校生活アンケートを実施し生徒の状況を把握した。</p> <p>・通年いつでも連絡できる学校生活アンケートを実施。いつでも報告できるように QR コードの載ったポスターを相談しやすいトイレ等に設置。</p> <p>・毎月いじめ防止委員会を開催し、担任から状況を聞き情報共有した。</p> <p>・PTA 役員会などで校則改定について説明をした。</p>	
<p>進路指導</p>	<p>進路希望の実現に不可欠な基礎学力の向上、また自らの思いや考えを伝える表現力、コミュニケーション能力の育成に努める。</p> <p>(1)キャリア教育の推進により、保護者との連携を保ち生徒の主体的意志に基づいた進路希望の実現を目指す。</p> <p>(2)校内において科や担任団など関係分掌との連携を円滑にし、キャリア教育を効果的に進めることで、その成果を生徒に提供する。</p> <p><b>【活動指標】</b></p> <p>(ア)社会状況に照らし安全を確保しながらも、数年間実施できなかった諸活動を再開する。</p> <p>・インターンシップ／在卒懇談会／企業訪問</p>	<p><b>【活動指標】</b></p> <p>(ア)諸活動</p> <p>・インターンシップ(夏休み実施) 受入れ企業14社 参加者26名</p> <p>・在卒懇談会 参加企業14社 大学1校</p> <p>・企業訪問(5月～6月) 28社を訪問</p> <p>(イ)スタディサプリ</p> <p>・本格導入初年度につき、生徒及び教員間にも十分浸透したとは言いがたかった</p> <p>・苦手分野克服のための反復学</p>	

	<p>(イ)スタディサプリの活用により、学習習慣を持続させ基礎学力の定着を目指す。</p> <p><b>【成果指標】</b></p> <p>(ア)求人企業数・求人数の大幅減の抑止</p> <p>(イ)一次合格率、就職90%以上・進学 95%以上の確保</p>	<p>習について、放課後に課題提出指導をしていただいた先生方のご協力により、課題提出が99%になった。</p> <p>・到達度テストはR4年度の実施結果と反省を踏まえ、現実に対応した計画に基づいて実施したい。</p> <p><b>【成果指標】</b></p> <p>(ア)売手市場化によりR3年度を大きく上回る求人数となった。</p> <p>R4年度の求人状況(R3年度比)</p> <p>県内 394社(+26) 685名(+72)</p> <p>県内全域 48社(-1) 80名(+8)</p> <p>北勢・伊賀80社(-11) 141名(-3)</p> <p>中勢 139社(+26) 240名(+41)</p> <p>南勢 127社(+12) 224名(+26)</p> <p>県外 180社(+16) 282名(+17)</p> <p>合計 574社(+42) 878名(+89)</p> <p>求人倍率 8.19倍(+0.69)</p> <p>(イ)<b>【就職】</b>一次 合格者112名 不合格者6名 (合格率94.9%) 学校斡旋の就職内定率は100%を達成した。</p> <p>増加 指名求人希望 9社10名 「非工業的職種」8社10名 (サービス・販売・営業事務・配送)</p> <p><b>【進学】</b>合格29 不合格6(四年制大学3 専門学校3) (合格率82%)</p> <p>不合格 「診療放射線科」「鍼灸マッサージ科」</p> <p><b>【公務員】</b></p> <p>合格者2名(警察・自衛隊)</p> <p>不合格者2名(警察・町役場)</p>
--	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

### 改善課題

新型コロナウイルス感染症防止対策で学校行事を体験していない生徒が大半を占める中で、脱感染症対策の学校運営に戻すことを考えていく必要がある。求人数をみると好調な売り手市場になっており、専門手着な技能の定着が資格や大会で結果を残しているが、基礎・基本の学力および産業人としての専門的な能力の定着に向けて、今年度の課題を確認し、努めていく。

### 【別表】

標記：目標／受験者数／結果

資格取得	資格、検定	機械科	電気科	建築科
	危険物乙種4類	45人／85人／13人	(40人／14人)	
	ガス溶接技能講習	79人／79人／78人		
	基礎製図検定	50人／79人／58人		

機械製図検定	50人/76人/40人		
技能検定(機械保全)3級	5人/3人/1人		
技能検定(機械検査)3級	10人/11人/11人		
小規模ボイラー講習	80人/26人/24人	(3人/3人)	
電気工事士2種		40人/40人/29人	
電気工事士1種		10人/8人/4人	
電気主任技術者3種		1人/3人/0人	
第二級陸上特殊無線技士		10人/11人/9人	
第二級海上特殊無線技士		10人/9人/9人	
技能検定(シーケンス制御)3級		10人/11人/5人	
技能検定(電子機器組立て)3級		13人/10人/8人	
福祉住環境コーディネータ3級			10人/10人/0人
2級建築施工管理技術検定試験			10人/5人/14人
カラーコーディネータ3級			10人/6人/24人
建築CAD検定4級			35人/39人/39人
建築CAD検定3級			35人/38人/19人
建設業経理事務士4級			20人/23人/23人
技能検定(建築大工)3級			5人/4人/4人
レタリング検定3、4級			35人/39人/38人

## (2) 学校運営等

項目	取組内容・指標	結果	備考
組織運営	<p>(1) 教職員間の対話の促進と、執務環境の改善や総勤務時間の縮減など職員の労働安全衛生の向上に努めます。</p> <p><b>【活動指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 定時退校日を月1日実施</li> <li>・ 部活動休養日を週1回設定</li> <li>・ 放課後の会議の時間 60分以内</li> </ul> <p><b>【成果指標】</b>( ( )内は令和3年度の実績 )</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 上限時間月45時間超の延べ人数0人 (38人)</li> <li>・ 上限時間年360時間超の延べ人数0人 (6人)</li> <li>・ 時間外労働を月2時間削減(13.1時間/月)</li> <li>・ 定時退校できなかった教職員数延べ45人以内(64人)</li> <li>・ 予定通り休養日を設定した部活動の割合100%(98%)</li> <li>・ 60分以内に終了した放課後の会議の割合100%(93%)</li> <li>・ 休暇取得を年0.5日増加(19.2日/年)</li> </ul> <p>(2) 体罰や不適切な指導のない状態を守り続け、生徒がより安心、安全に過ごせる学校を目指しま</p>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 定時退校日、部活動休養日、放課後の会議時間の設定を活動指標通りとした。</li> <li>・ 月45時間超 100人(2月末)</li> <li>・ 年 360 時間超15人(2月末)</li> <li>・ 時間外労働 月 2.5h(2月末)</li> <li>・ 定時退校できなかった職員は、22人。</li> <li>・ 休養日を設定した部活動は、88%。</li> <li>・ 60分以内に終了した放課後の会議について、95%(職員会議)</li> <li>・ 休暇取得についても、学校閉校日を昨年度から今年度4日に増やして取得率増加に繋がった。</li> </ul> <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校信頼向上委員会を11回、全職員生徒にコンプライアンス研修を3回実施するとともに、デスクネットや新聞を活用した不祥事の情報共有を図り、</li> </ul>	

	<p>す。</p> <p><b>【活動指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コンプライアンス研修を年2回実施</li> <li>・ミニコンプライアンス研修を月1回実施</li> </ul> <p><b>【成果指標】</b></p> <p>職員一人ひとりのコンプライアンス意識が高まっている。</p> <p>(3) ICT教材を活用した授業研究等を通じて、各教科のICT教育のスキルアップを目指します。</p> <p><b>【活動指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT研修を年3回実施</li> </ul> <p><b>【成果指標】</b></p> <p>各教科におけるICT教材を活用した授業の実施と、ICT教材を活用した授業改善を目指します。</p>	<p>職員のコンプライアンス意識を高めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現在は、およそ半数の授業でICT機器を活用したものとなっている</li> </ul> <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Giga サポーターが来校する際に個別に研修を実施し、授業・校務改善を進めた(8回)</li> </ul> <p>GiGa サポーターによる研修会を行った(1回)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各科で観点別評価に利用できるツールを科長会で作成し、共有した。</li> <li>・各教科でICT活用指導計画の改善を図るとともに、各教科で他教科が参考にできる活用事例を作成した(9教科・科目)。</li> </ul>	
<p>地域との連携</p>	<p>南勢地区唯一の工業高校としての存在意義を高めるため、地域との連携を深めます。</p> <p>(1)地域の自治体、企業や幼保小中学校との連携を強化し学校の情報発信力の強化を図ります。</p> <p><b>【活動指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(ア)地元商店等のオリジナルグッズの開発</li> <li>(イ)小学校への出前授業の実施</li> <li>(ウ)工業高校生フェアの開催準備(R3年度は休止のためR4年度に向けての検討)</li> <li>(エ)「ものづくりの小径」の整備</li> <li>(オ)報道機関への資料提供やSNS等による積極的な情報提供</li> </ul> <p><b>【成果指標】</b></p> <p>地域関係者との連携強化が進んでいる。</p> <p>(2)地元企業との連携強化に向けて、双方向からの情報発信・相互理解を深めるための行事を実施します。</p> <p><b>【活動指標】</b> 地元企業の高校内企業説明会の実施</p> <p><b>【成果指標】</b></p> <p>企業、生徒双方の満足度90%以上(満足度アンケートより)</p>	<p>(1)</p> <p>(ア)</p> <p>度会町と連携</p> <p>保育所クラスプレート製作・設置</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・度会町立長原保育所</li> <li>・度会町立棚橋保育所</li> <li>・度会町立中之郷保育所(進行中)</li> </ul> <p>伊勢市と連携</p> <p>児童園ベンチ作成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・伊勢市あおぞら児童園(進行中)</li> <li>・ふたみ保育園家具製作</li> </ul> <p>建築科課題研究で「伊勢の家具職人」と連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教材制作</li> </ul> <p>度会特別支援学校 教材制作</p> <p>伊勢志摩地域と連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・伊勢警察署と連携して啓発活動等実施</li> <li>・明野高校、みよしやと連携して吟醸酒「明野さくもつ」の化粧木箱製作</li> <li>・山中豆腐店のメニュー等製作</li> </ul> <p>(イ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・伊勢工業高校小学生講座</li> </ul> <p>1月6日(金)イオンモール明和 参加者474人</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・こどもの城サイエンスフェスタ</li> </ul>	

		<p>3月18日(土)こどもの城          オルゴールづくり 参加40組          (ウ)          ・工業高校生フェア中止          (オ)          新聞掲載確認件数28件(2月末)          公式インスタグラムアカウント立上げ          ・投稿79件、フォロワー411人(2月末)          ものづくりの小径は、整備を進めた。          (2)          1年生、2年生を対象とした企業説明会を実施した。          地域とかかわった連携の満足度は          相手先 100%          生徒 100%であった。</p>	
--	--	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--

### 改善課題

コロナウイルス感染症対応や ICT機器の導入、令和4年度入学生から施工された学習指導要領による観点別評価方法等、新たな業務の実施も普段の学校運営に取り込まれたが、勤務時間短縮の観点からよりよい手法を見出す活動をすすめる必要がある。

生徒指導は、社会の変化を捉えて生徒、保護者、教職員で改善活動をすすめることができ、継続していきたい。

令和4年度は地域の中学3年生の人数が1クラス分増加した。校外活動とその報道もあって、希望者も定員を上回った。次年度以降は地域の中学生数も減少になることから、継続して校外活動を進める。

生徒や保護者から、四年制大学進学ニーズが一定数ある中、今年度は工業高校枠を利用して同志社大学の入学選考に合格することができた。継続して進学対策に取り組みたい。

## 5 学校関係者評価

<p>明らかになった改善課題と次への取組方向</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県内の児童生徒数が減少しており、特に伊勢志摩地域では顕著であると感じる。そこで、様々な特性の生徒が入学する中、個々の生徒の知識・技能を伸ばせるような指導を継続してほしい。</li> <li>・ 伊勢工業高校の地域での活躍とその躍進を感じる1年であった。「高校生工務店」、建築科の取組が大きく注目されているが、全体の取組みが一部の生徒に集中するのではなく、全校生徒に広げるとともに、機械科、電気科も特徴を公表してほしい。</li> <li>・ スマートフォンやタブレットに慣れた児童が進学してくる中で、立体視できない生徒が増えているように感じる。次の世代を担える、実際のモノを触った「ひとつづくり」を育成してほしい。</li> <li>・ 高校生工務店で「新しい工業高校」を示すことができたと思う。地域にあるベンチャー企業からの支援を受けるなど、さらに新しい形の工業高校を模索してほしい。</li> </ul>
----------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## 6 次年度に向けた改善策



<p>教育活動についての改善策</p>	<p>令和4年度取り組んできた「ひとづくり」「ものづくり」について、成果をあげ、学校評価委員会でも評価をいただいた。このことを受けて次のことを実践していきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・伊勢工業高等学校の教育活動をとおして、基本的な生活習慣を身につけ社会常識のある明るく素直な生徒（ひとづくり）、産業界から求められる技術・技能習得の意欲あふれる生徒（ものづくり）、自他の命を尊重し、差別をなくす実践力と高い自己肯定感を有する生徒を育成する。</li> <li>・育みたい生徒像を育成するために、不易な「ものづくり」の資質・能力を育成するための教育課程を編成し、そのうえで、南勢地域全体に求められる「ものづくり」（探究的な学習）に参加し、生徒が主体的に新しい資質・能力を学ぶ機会を設ける。</li> <li>・「ものづくり」が好きで、学校での学習や地域での体験を基に自身が成長できる、生徒から望まれる学校づくりを行う。</li> </ul>
<p>学校運営についての改善策</p>	<p>教職員の働き方改革は、引き続き啓発をとおして、業務改善に努めます。 教職員のコンプライアンス意識や、人権感覚を高めるため、職員会議、研修等に取り組み、継続的に意識を深めていきます。</p>